

矢板のりんごを使った「れなちゃん石鹸」

ら・ぼむ代表 和気ちかさん

やいたブランドに認定されている「れなちゃん石鹸」を紹介します。障がい者を支援する団体「ら・ぼむ」代表でもあり、石鹸の企画から販売まで手がけている和気ちかさんにお話を伺いました。



●きっかけは

自身の娘の行動がきっかけです。れなは、特別支援学校に通う高校生で話をしたり字を書くことができません。

そんなれなも、自分で髪や体を洗いだし、目や口に泡が入っているのを見てこの石鹸は安全なのか不安になりました。

さまざまなメーカーを使用しましたが納得いかないものばかりでしたので、安全、安心な物を自分で作ってみようと思いました。

●ネーミングは

「障がい者であっても当たり前働ける世の中になってほしい」、「子どもたちが将来自力で生活できる先駆けとなれば」

との願いを込めて石鹸に娘の名前をつけました。

●どんな石鹸ですか

化学薬品は一切使わず自然の材料と長井のりんごを練り込んでいます。赤ちゃん(新生児以外)からお年寄りまで使え、肌をやさしい石鹸です。

製造工場は長野県にあります。長年ハーブと化粧品の研究をしている農学博士の川上晃氏に依頼して作っていただきました。

りんごの成分は保湿成分グリセリンの配合を減らせることで、矢板のりんごを使っていただきました。

●評判はどうですか
ラジオ番組で「やいたブランド」の一つとして紹介されてから、多くの方から問い合わせをいただくようになりました。

●使いはじめて、肌が潤ってきたような感じがします。もちもちしてきます。(五十代女性)

「りんごの香りが良く、使用後にお風呂全体が香りに包まれています。」

今では安全なこの石鹸を家族全員で愛用しています。(三十代男性)

●入手できる場所は道の駅やいた、城の湯温泉センターなどで販売しています。

●(記者の感想)
取材後に早速購入し、使い始めました。やさしく、お肌しっとりでつっぱらないのがいいです。化粧のりも良く、肌も絶好調です。(M・W)

●問い合わせ
NPO法人
ワーカーズコープ内
電話：(四三三)〇四二四



介護技術コンテスト

矢板高等学校 社会福祉科

県内に三校しかない、介護福祉を専門に学べる「矢板高等学校」。六月九日(土)に開催された「第三回県高校生介護技術コンテスト」で、最優秀賞と優秀賞を獲得しました。

今回は「介護技術部門」において最優秀賞を獲得した、三年生の高根沢桜さん、高橋麻衣さん、宮本咲さん、そして見目義直先生に大会のお話を伺ってきました。



コンテストの様子

●練習で苦労したことは
高め合う場でもあります。練習期間は三週間でした。この期間中は校外実習も重なり、練習は夕方遅くからの開始となりました。

先生から与えられた課題を、本番と同じような時間配分で進めましたが、思うように動くことができず、悔し涙を流しながらの練習も何度か経験しています。

●賞を獲得した要因は
課題には必ず「設定」があります。それに沿って利用者のことを考えた選択(例えばタオルの硬さや着させやすい衣類の選択)ができたこと、そしてコミュニケーションも十分に取れたことが受賞につながったと思います。

●課題は直前に知らされ、二十分間でどのように行動するかを考え、八分間の審査時間で表現します。技術を競い合うだけでなく、お互いの技術を

練習でできなかったところが当日できたり、三人の日々の練習の成果を發揮することができました。●賞を獲得しての気持ちはもちろんうれしいですが、でも満足はしていません。九月一日には関東大会が神奈川県で開催されます。そして十一月には全国大会も控えています。最終目標は全国大会での最優秀賞の獲得です!

●(記者から一言)
「介護は楽しい」と笑顔で話してくれた彼女たちからは自信がみなぎっていました。今はちょうど夏休みですが、休み返上で自身の技術を高める練習をしているので、うね、頑張ってください!(Y・S)

